

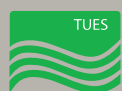
第5回 全国高校生環境論文 TUESカップ論文報告書

テーマ

「水と私たち」



TOTTORI
UNIVERSITY
OF
ENVIRONMENTAL
STUDIES



鳥取環境大学

T U E S C U P 2 0 0 8



鳥取環境大学学長

古澤 巖

－刊行によせて－

現在、人類は地球温暖化をはじめ、水・食糧・エネルギー問題等きわめて多くの困難な課題に直面しています。しかし、人類の取るべき方向や目標は、未だ明確ではないのが現状です。

そこで、次世代を担う現代の高校生が、環境問題についてどのような考えを抱いているのか知りたい。また、考えるきっかけになれば良いのではないか。そんな思いからはじめた「全国高校生環境論文TUESカップ」も5回目を迎え、初回の応募数554作品から今回の1,423作品と順調に増えてきました。高校生の皆さんの環境問題に対する意識は、年々高まっているようです。

過去4回は、環境問題を幅広く主張してもらうことを目的として、「環境問題」を主軸にテーマを設定したところ、毎年幅広い主張が寄せられていました。しかし、一方で間口の広いテーマ設定であるがゆえに、規定字数内に自分の考えをしっかりと述べることに苦労している様子も窺えました。

そこで、今回は「水と私たち」とテーマを「水」にあえて絞り、身近にある「水」について高校生の皆さんがどのように学び、問題意識を持っているのかを問いかけたところ、実に多彩な作品が寄せられました。

紙面の都合上、本報告書には入賞作品しか掲載できませんでしたが、1,400を超えるこれらの多彩な作品は、我々に多くの感銘を与えてくれました。

また、本学では今後もこの論文募集事業を通じて、基本理念である「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うことで、その使命を果たしていく所存です。

最後になりましたが、本論文に応募していただいた高校生の皆さんや指導に当たって頂いた教員の皆様をはじめ、ご支援ご協力頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

I 第5回全国高校生環境論文TUESカップ Report

1 論文募集	2
2 審査	2
3 表彰	3
4 論文発表会	4
5 学生ISO委員会の活動紹介と環境特別講演会	4

II 入賞作品の紹介

環境大賞

川と共に生きる

島根県立津和野高等学校 1年 宮本 彩…………… 5

鳥取県知事賞

環境戦士 エコ・イエローは考える

兵庫県立三木北高等学校 2年 五十川 諒…………… 7

鳥取市長賞

湖山池の環境問題

鳥取県立鳥取東高等学校 2年 森 文香…………… 9

新日本海新聞社賞

まもりたい

徳島県立池田高等学校 2年 中上 祥恵…………… 11

佳作

自らの変化は水の変化

富山県立高岡高等学校 1年 土橋 千咲…………… 13

佳作

地球という星に生まれて

鳥取県立米子東高等学校 2年 伊藤 千恵子…………… 15

佳作

水とわたしたち人間

京都府立洛北高等学校 1年 中野 さゆり…………… 17

III 応募高等学校一覧	19
--------------	----

IV 過去の賞歴	20
----------	----

I 第5回全国高校生環境論文

TUES[※]カップ Report

※TUES=鳥取環境大学 (Tottori University of Environmental Studies の略)

1. 論文募集

地球環境問題について、次世代を担う高校生の意見を論文として作成・発表してもらうことを目的に、全国高校生環境論文「水と私たち」を下記の通り募集しました。

- 1) テーマ 「水と私たち」
テーマをもとに、自由な視点から論文作成。
- 2) 応募資格 日本の高校に在学している高校生（国籍不問）
- 3) 応募内容 応募は1人1作品。日本語で書かれた未発表のものに限る。
論文は、原稿用紙（400字詰め）又はA4版用紙（書式：30字×40行）を使用。字数は2,000字以上3,000字以内。
- 4) 応募期限 平成20年9月4日（木）（当日消印有効）

2. 審査

応募件数 1,423作品（22道府県、39校）※参加校はP19のとおり

審査は、学外委員及び本学教員で構成する論文審査委員会が実施しました。

審査委員長	学	長	古	澤	巖			
審査委員(学外)	鳥	取	県					
	鳥	取	市					
	株式会社新日本海新聞社							
(学内)副	学	長	神	近	牧	男		
	環境政策学	科学科	長	合	田	素	行	
	環境政策学	学科	准教授	西	村	教	子	
	環境政策学	学科	准教授	加	々	美	康	彦
	環境デザイン学	科学科	長	十	倉		毅	
	環境デザイン学	学科	教授	東	樋	口	護	
	環境デザイン学	学科	准教授	中	治	弘	行	
	情報システム学	科学科	長	秦	野	諭	示	
	情報システム学	学科	教授	大	筆		豊	
	情報システム学	学科	准教授	福	本	善	洋	

3. 表 彰

1) 環 境 大 賞 (1名) ……………トロフィー 賞状 図書カード 10万円

川と共に生きる

島根県立津和野高等学校 1年 宮本 彩

2) 鳥 取 県 知 事 賞 (1名) ……………トロフィー 賞状 図書カード 5万円

環境戦士 エコ・イエローは考える

兵庫県立三木北高等学校 2年 五十川 諒

3) 鳥 取 市 長 賞 (1名) ……………トロフィー 賞状 図書カード 5万円

湖山池の環境問題

鳥取県立鳥取東高等学校 2年 森 文香

4) 新日本海新聞社賞 (1名) ……………トロフィー 賞状 図書カード 5万円

まもりたい

徳島県立池田高等学校 2年 中上 祥恵

5) 佳 作 (3名) ……………賞状 図書カード 2万円

自らの変化は水の変化 富山県立高岡高等学校 1年 土橋 千咲

地球という星に生まれて 鳥取県立米子東高等学校 2年 伊藤 千恵子

水とわたしたち人間 京都府立洛北高等学校 1年 中野 さゆり

6) 学 校 賞 (3校) ……………賞状 図書カード 3万円 (応募件数の上位3校)

愛知県立岡崎商業高等学校 愛知県

鳥取県立鳥取東高等学校 鳥取県

鳥取県立鳥取西高等学校 鳥取県

7) 奨 励 賞 (13校) ……………賞状 図書カード 1万円

(上記以外で応募数10作品以上の高校)

徳島県立池田高等学校 徳島県 福岡県立山門高等学校 福岡県

埼玉県立いずみ高等学校 埼玉県 岡山学芸館高等学校 岡山県

島根県立津和野高等学校 島根県 京都府立洛北高等学校 京都府

神戸学院大学附属高等学校 兵庫県 京都府立桃山高等学校 京都府

聖カタリナ女子高等学校 愛媛県 福岡県立香住丘高等学校 福岡県

京都市立伏見工業高等学校 京都府 佐賀県立武雄高等学校 佐賀県

開 星 高 等 学 校 島根県

4. 第5回全国高校生環境論文・入賞論文発表会と本学学生ISO委員会活動紹介・環境特別講演会

地球環境問題について、高校生の意見を発表してもらうことを目的に、全国高校生環境論文「水と私たち」を募集した結果、全国から1,423件の応募がありました。そして、学内外委員による厳正な審査を経て入選作品が選出され、10月12日（日）には「第5回全国高校生環境論文TUESカップ論文発表会・表彰式」と本学学生ISO委員会の活動紹介・特別講演会が行われ、多数の方が来場、盛会裏に終了しました。

第1部 論文発表会・表彰式

受賞者の4名が受賞論文について発表を行いました。

①環境大賞 「川と共に生きる」

島根県立津和野高等学校 1年 宮本 彩さん

地元「津和野川」の水質汚染を改善する為に、町がどのように取り組み、自分もどのように取り組むべきか考え、同じ水を共有して暮らしていると意識することが大切だと訴えました。

②鳥取県知事賞 「環境戦士 エコ・イエローは考える」

兵庫県立三木北高等学校 2年 五十川 諒さん

「打ち水」や「緑のカーテン」などの試みがムダを生み「みせかけのエコ」活動にならぬよう、状況に応じた的確な判断をくださる感性と想像力を磨く必要があると述べました。

③鳥取市長賞 「湖山池の環境問題」 鳥取県立鳥取東高等学校 2年 森 文香さん

鳥取市にある「湖山池」における農業と水産業の問題を捉え、まず自分たちにできることから始めていかなければならないと発表しました。

④新日本海新聞社賞 「まもりたい」 徳島県立池田高等学校 2年 中上 祥恵さん

夏の渇水期に取水制限があることから水の大切さを感じ、その水をいかに汚すことなく使うことが大切であることを伝えました。



続いて、1,423作品のなかから選ばれた個人賞7作品と学校賞の3高校に、古澤学長、鳥取県青木企画部長、鳥取市深澤副市長、新日本海新聞社田中営業局長より、賞状・トロフィー・副賞が贈られ、各賞を受賞したそれぞれの作品について講評頂きました。

第2部 学生ISO委員会の活動紹介・環境特別講演会（主催：鳥取環境大学学生ISO委員会）

第2部は、本学学生ISO委員会の主催により、同委員会活動紹介と『環境特別講演会』を開催しました。石川県立大学教授で環境マンガ家として活躍されている高月 紘たかつきひろし氏から、「地球環境問題と私たちの暮らし」をテーマに、1コママンガを交えながら、環境問題と私たちの暮らしについて、わかりやすくご講演いただきました。【平成20年度鳥取県環境立県協働促進事業補助金採択事業】



Ⅱ 入賞作品の紹介



川と共に生きる

島根県立津和野高等学校 1年 宮本 彩



私の住む津和野は緑に囲まれた自然豊かな町です。歴史深い津和野の町を山々が取り囲み、町の中を津和野川が流れています。

津和野川にはたくさんの鯉が泳ぎ、河岸には鷺が凜と立っています。私はそんな津和野の町を誇りに思い暮らしてきました。

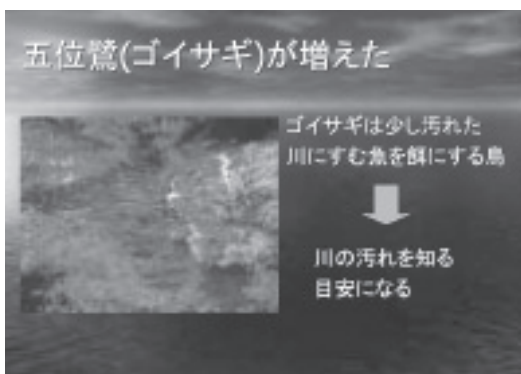
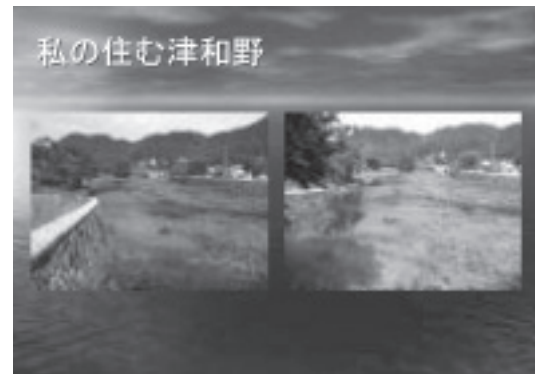
しかし、通学時に毎日川沿いの道を歩くようになり、私が思っている以上に川が汚れていることに衝撃を受けました。川には大量の水草が発生し、水の淀んでいる所には油のようなものまで浮いているのです。津和野川は大丈夫なのだろうか……心配になった私は川の水質のことについて調べてみました。すると水草の大量発生は、生活廃水によるリン酸濃度の上昇と考えられるということでした。また、私が小さかった頃より五位鷺が急激に増えてきたように感じていたのですが、五位鷺は、『少し汚れた川に住む魚をえさにする鳥』だそうです、川の汚れを知るための目安にされる鳥なのだということも分かりました。

このままでは津和野川は死んでしまうのではないだろうか。大人達はどうか考えているのだろうかと思い、母に川のことを聞いてみました。すると、津和野町も環境保護の観点から、下水道工事を進めているけれど、全町の工事が終了するのは何十年も先のことになりそうだということ。そこで身近な所から水質を改善するための取り組みとして、EM菌を各家庭に配布しているのだということを知りました。私はEM菌というものを初めて知ったのですが、EM菌とは有用な微生物のことで、汚染物質を分解する働きがあるそうです。だからお風呂や台所の廃水溝にEM菌をかけることで川に流れ出ていく生活廃水を浄化することができるのです。

私はこの対策を聞いて、今まで自分が環境対策に関心を持っていなかったことを反省しました。そして私も自分にできることで川をきれいにする取り組みに協力したいと考えました。

まず、即実行できることとして、台所洗剤の使用を極力減らすための工夫をすることです。

- ① 油汚れがひどいお皿はボロ布で一旦汚れをふき取ってから洗う。



② 片付けの際、油污れのついたお皿を他のお皿と重ねない。

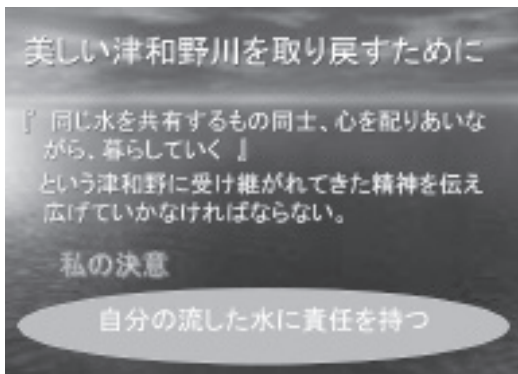
③ 食べ残しをしない。

たったこれだけのことですが、『台所洗剤の量を減らす』ことを頭に入れて、食事の準備から片付けをしてみると、今までは食器洗いの途中で何度も洗剤の付け足しをしていたのに、一度も洗剤の付け足しをせずに洗い上げることができました。みんながほんの少し意識するだけで、こんなにも効果があるというのは私にとって、と

ても大きな驚きでした。また、洗剤を使う時やシャンプーを使う時に、泡だらけの水が川に流れていく光景を思い浮かべるだけで、使用量の抑制につながることも気付きました。

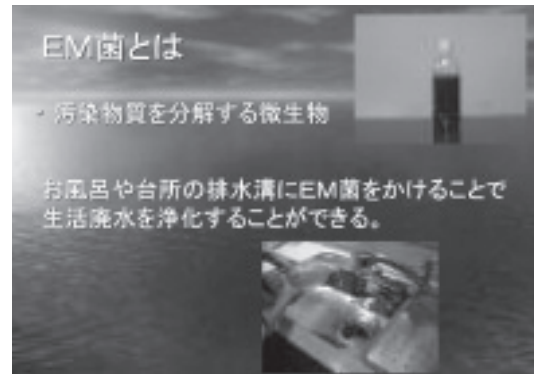
その他にも洗濯洗剤は適量を使う、米のとぎ汁は流さず、花の水やりに使うなど簡単にすぐ実行できることがたくさんあります。こういう小さなことを少しずつ積み重ね、一人一人が「津和野川を守るんだ」という気持ちを持って生活すれば、津和野川は必ず昔の美しさを取り戻すはずですよ。

しかし私の心の中には、何かすっきりしないもやもやがありました。川の汚染は、人口と比例します。津和野町の人口は減少の一途をたどっているのに、川の汚染が進んでしまっているという事実には何か納得できないものを感じていたのです。そのことを家族に話してみると、祖父がこんな話してくれました。「津和野はとて水と深く関わって暮らしてきた所でね。大抵の家は、川の水を家の池に引きこんで、そこに鯉を飼って楽しんできたんだ。川上の家の流した汚水やゴミは、そのまま川下の家の池にも入ってしまうから、どの家も自分の家より川下に住む人のことを考えて暮らしていたよ。でもそれは決して特別なことではなく、同じ水を共有する者同志当然の心くばりだったんだ。だけど最近では核家族化が進んでそういうことを話す年寄りもいなくなったり、家に池のある家も減ってしまったから、そういう心くばりもなくなってしまったのかもしれないね。」



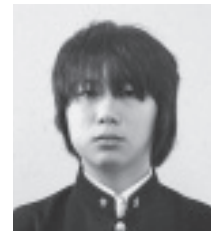
私はその話を聞いて、代々津和野の人達は津和野川を通して一つの共同体意識を持って暮らしてきたのだということを知りました。それが今は個人主義が浸透し、私のように町の環境保護活動にも関心を持たず、自分の家から流れた廃水がどこへ流れ、どの様になっていくのか考えもしない、そんな人が増えてしまった結果、今の津和野川の現状を招いてしまったのだと思いました。

美しい津和野川を取り戻し、次の時代の人々にもこの川を残すために、私たちは「同じ水を共有する者同志、心をくばり合いながら暮らしていく」という代々津和野に受け継がれてきたこの精神を伝え、広げていかなければいけません。「自分の流した水に責任を持つ」そんな意識改革だけで私の生活の中にも川と共に暮らしていく人達への心くばりが生まれてきました。私はこの気持ちを大切に持ち続け、周りの人へも伝えていきたいと思っています。



環境戦士 エコ・イエローは考える

兵庫県立三木北高等学校 2年 五十川 諒

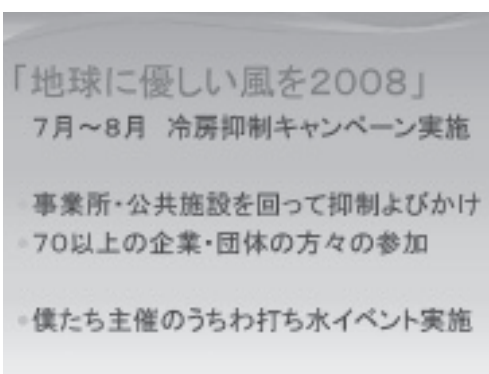


豊かな時代に生まれた私は、水道の蛇口をひねればきれいな水が出るのが当たり前として育った。食事をはじめ、お風呂、トイレなど、水なくしては生活できないにもかかわらず、意識して使っていないかった。小学生の頃には、外で水を出して友達と水の掛け合いをしたり水でもよく遊んだ。使いたいときに使いたいだけ使い、蛇口がきちんと閉まっていなくてもお構いなしだった。

そんな私が水環境のことに目を向けるようになったのは、小学校5年生のときだった。宿題で自分の家の水や電気の使用量を調べることになった。一年分の使用量を調べるとよく使う月があることが分かった。季節でいうと夏、それに冬、特に師走が多かった。それは、多少の差はあっても水も電気も同じ傾向だった。そういう今の状況を踏まえてどうすれば減らせるだろうか見直すことになった。母に聞くと洗濯には風呂の残り湯を使っていることが分かった。たくさん使用するところは再利用できているので、細かいところをチェックした。シャンプーのときのシャワーと歯磨きのときの水の出しっぱなしがあることに気づいた。それからは、自分で気をつけて水を止めるようにしたし、家族にも「水、もったいない。」とチェックしていった。はじめは「邪魔くさいなあ」と思うこともあったが、何回も繰り返しているとそれが当たり前になっていった。そういう小さな心がけで水の使用量は少し減った。私はその時「こんなに簡単に減るんだ。自分の家でこれだからみんながやればもっといっぱい減るのになあ」と漠然と思った。

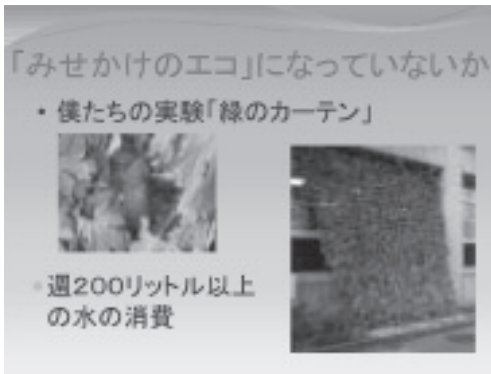
プチ環境少年だった私も高校2年生になった。私は今、環境研究部E C O - Pの部長として、また地球を守る戦士「環境戦隊えこびいファイブ」の一員、エコ・イエローとして子供たちに気候変動の影響についてわかりやすく解説し、地球環境を守る大切さを啓発する活動をしている。全国の高校にも例のない部活動だ。

今年度は、G 8 環境大臣会合関連行事への参加、冷房抑制キャンペーン、小学校や保育園への出張授業、多くの人を訪れるレジャーホテルやイベントでのPR活動などを自分たちで企画し実施してきた。



7月から8月にかけて実施した冷房抑制キャンペーン「地球に優しい風を2008」では、事業所や公共施設を回って冷房抑制運動への参加を呼びかけ、市役所をはじめ商店街、70以上の企業・団体の方々の参加を得ることができた。そして、その一環として、8月8日に三木市役所前広場を会場として、私たち主催でうちわ打ち水イベントを行った。

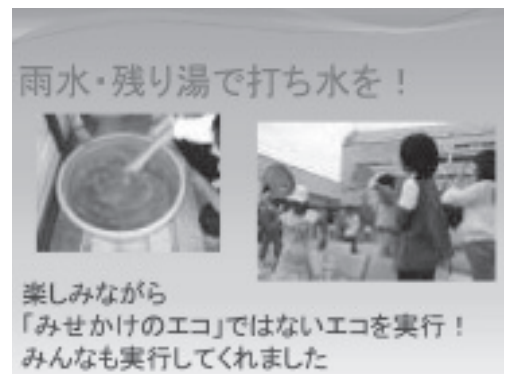
最近、夏を涼しくする試みとして「打ち水」や「緑のカーテン」といった試みが各地で行われている。しかし、それは本当に地球に優しいのだろうか。水の豊かな国日本で



育った私たち日本人は「水」に関して感覚が鈍いのではないだろうか。たとえば、蔓植物を使った「緑のカーテン」が最近あちこちで実施されている。私たちの部でも、今年その効果を実験してみた。暑さと乾燥に強いゴーヤを使ったのだが、それでも、5mの幅に植えた20本のゴーヤのカーテンを枯らさないために、週にして200リットル以上の水が必要だった。雨水のくみ置きではどうていまかなえなかった。葉陰と蒸散の効果で確かに室内温度は最大5度以上さがるのだが、これは明らかに効果を上回る「水の無

駄遣い」の側面を持つものだと感じた。

エコの名のもとに行う「打ち水」イベントも水道水を使ってやったのでは、この緑のカーテンと同じく「みせかけのエコ」にすぎない。そこで、私たちは、イベント参加者には、マイうちわと打ち水用の水を持ってきてもらうことにして、水もエコを考えて風呂の残り湯や台所で使った水など使用したものでいいですと呼びかけた。みんな本当に持ってきてくれるのか不安だったが、当日は多くの方々が水の入ったペットボトル片手に参加してくれた。そしてカウントダウンと共にみんなで一斉に打ち水をした。するとちょっと涼しい風がほほをなでた。実際に気温も2度ほど下がり少ししのぎやすくなった。このように多くの人たちが私たちの考えに賛同してくれて、子供たちと楽しみながら「みせかけのエコ」ではないアクションで効果を実感できたことは私たちにとってもいい経験となった。



私たちの活動はすぐに結果が出るものではない。しかし、子供たちの心に芽生えた環境の芽を育てること、感性の鋭い子供たちの心に残るように、環境について自分の目で見て肌で感じ将来状況に応じた的確な判断を下せるように感性と想像力を磨いてもらうことが大切だと思う。

13年前、阪神淡路大震災があったとき、私は2歳だったのでほとんど覚えていないが、当時のことを母に聞くと、揺れが収まって安全を確認した後に一番にしたことは、浴槽をはじめ鍋、やかんあらゆるものに水を貯めることだったという。なぜかと聞くと、母の実家姫路では水不足で夏になると給水車が廻って来て、水をもらうため鍋をもってよく並んだと言っていた。祖母は戦争の経験もこめて母に「水と塩があったら生きられる」とよく言っていたそうだ。母は、震災のときそんな遠い子供の頃の記憶がふっと蘇り「水！」と思ったみたいだ。私たちのしていることもそういうことなのかもしれない。



高校生である私たちには、まだまだ社会を動かすだけの力はない。でも、微力でもあきらめず行動していくことで誰かの心に何かしら残すことができればそれでいい。そして、環境のことが話題にならない日がないくらい、みんなが地球の環境のことに思いをめぐらせてくれるようになればいいと思う。

では、エコ・イエロー、今日も地球のために頑張ってきます。

湖山池の環境問題

鳥取県立鳥取東高等学校 2年 森 文香



私は高校生になって、ボート部に入った。ボート部は湖山池で活動している。今、ボート部に入って二年目になるが、一年前と比べて、湖山池の様子が変わったと感ずることがある。

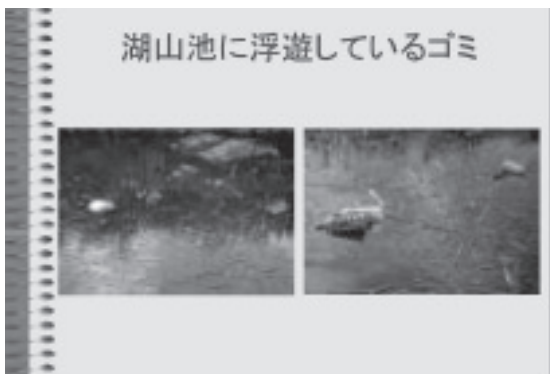
例えば、湖山池の環境が年々悪くなっているということである。一番気になっていることは湖山池の水の汚染についてである。

湖山池は六つの川とつながっている。その川は、湖山川・三山口川・福井川・宇田川・枝川・七ヶ川である。その中でも、千代川の河口付け替えにより千代川の支流、湖山川は切り離され直接海に流れ込んでしまう川となった。そのため、このままだと、湖山池の塩分濃度が上がり、農業用水に利用できないという問題が起こってしまった。これを改善するために、湖山川の水門建設が始まった。しかし、この水門は防潮水門のため、湖山池の水は停滞してしまい以前のように常時水が流れなくなり、淡水化し、水の循環が悪くなり水質悪化につながり、湖底は無酸素状態になった。



今述べた問題は、水質だけではなく魚類の遡上ができなくなり生態系にも影響がでている。湖山川が直接海に流れ込んでいると述べたが、その流れ込んでいる海も、汚染されている。

日本の近海は、とても汚れていて世界のワースト10にも入っているという。特に日本の近海で問題となっているのは、ダイオキシンなどによる有害な化学物質汚染である。なぜなら、日本は世界で一番のダイオキシン汚染国と呼ばれているからである。



また、湖山池の水の汚染について、生活雑排水、農薬、肥料などによる影響もある。

他には、湖山池に浮かんでいるゴミの量についてである。

一年前、ボート部に入って、初めて陸から湖山池を見た時、きれいな池だと思った。しかし、ボートに乗って水上に出て漕いでみると、あちらこちらにゴミがういているのを見つけることが出来た。それが、日が経つにつれ、陸の上からでも見る事が出来るほど、ゴミが増えていた。岸の近くに固まってういているのが見えたりすることもあった。主なゴミは、ペットボトルやナイロン袋であり、誰かが捨てたであろうものだった。今は、一年前と比べ、ゴミが増えたと私は感ずている。

また、河川、農業用水排水路のコンクリート化により、植物などによる自然浄化能力の減少だったり、護岸による、なぎさの減少の影響で、植物やバクテリアなどによる自然浄化能力の減少も問題で

ある。

湖山池には、魚介類が住んでいる。ときどき、元気に跳ねて水上に出てくることもあり、魚たちにとっては、湖山池の水の汚染はあまり気にならないものだと考えていた。

しかし、それは違っていた。

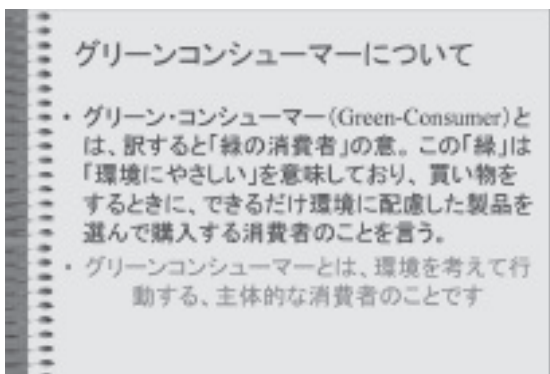
まず、湖山池の水の淡水化による影響については、遡河魚の減少・病気・魚の小型化・絶滅などがある。次に、水質汚染による影響については、きれいな水に住む魚介類の減少・絶滅などがある。また、護岸による影響については、なぎさ消滅により産卵場所の消滅などがある。そして、農業用水排水路のコンクリート化・耕地整備による影響については、産卵場所の消滅などがある。魚たちにとって湖山池の問題は深刻なものであった。

湖山池では、この魚たちをとる漁師さんもいる。その漁師たちは、魚たちが抱えている問題を解決しようと活動していることがある。

湖山池では、この魚たちをとる漁師さんもいる。その漁師たちは、魚たちが抱えている問題を解決しようと活動していることがある。

それは、稚魚の放流・たまごの保護・魚たちが住みやすい環境づくりをしている。漁師さんは魚をとっているだけではなかったのである。

今まで述べてきた問題を解決するために、私たちに出来ることを考えてみると、まず第一に、水を汚さない工夫をすることが重要である。



例えば、合成洗剤を使わない、汚れた水を流さない、殺虫剤を使わないなどである。

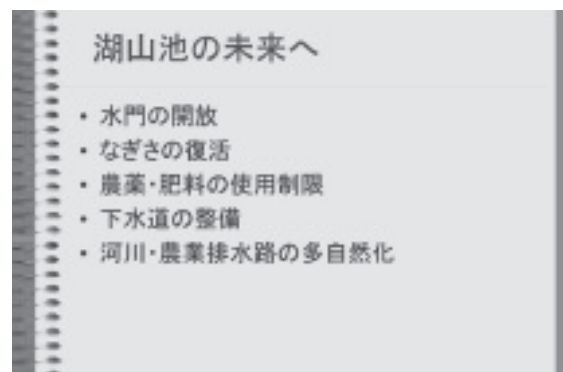
また、ゴミに対しては、ゴミを減らす、家庭や職場でゴミを焼かない、ゴミのポイ捨てをしないなどである。ゴミは、いろいろな経緯で川や海に行き着いてしまうのである。

そして、グリーンコンシューマーになることである。これは、先々ゴミになるモノを買わないということである。

湖山池に私たちが出来ることは、水門開放による汽水化・なぎさの復活・農薬、肥料の使用制限・早急な下水道整備と処理水の直接放流をやめる・河川、農業排水路の多自然化である。

これからの湖山池は水門を開き塩分濃度の調整をしながら、湖山池の水質を管理していくことをすべきである。

今すぐには綺麗にならなくても、これ以上の水質悪化を止めて、少しずつでいいから、綺麗にして、それを維持できるよう、みんなが協力して、今出来ることをするのが、これからの湖山池にとって、そして私にとって重要である。



まもりたい

徳島県立池田高等学校 2年 中上 祥恵



私の住んでいる徳島県は吉野川という大きな川の恩恵をうけている。上流にある早明浦ダムは「四国の水瓶」と呼ばれ、私たちの生活用水を満々とたたえてくれている。吉野川なしに私たちの生活はあり得ないと言っても過言ではない。しかし、近年夏の渇水期になるとダムの貯水率が下がり、取水制限が行われることが常態化してきている。先日もダム底に沈んだ旧役場が貯水率の低下により、湖底から姿を見せている映像がテレビのニュースで流れていた。私の小さい頃、この様なことはなかった。これも環境の変化が原因なのだろうか。

ここ十年で環境は大きく変化したと思う。地球の砂漠化や温暖化が問題になっているが、そんな規模の大きなことではなくて、私の周りでも雨が少ないことは身をもってひしひしと感じている。この夏も雨が少ないせいで、我が家の家庭菜園のトマトやキュウリ、ピーマンなどの野菜はからからの土の上で葉を縮めて、今にもしおれかけている。一体何日雨が降っていないのだろうか。早朝に水をやっても、気温が高いため水はすぐに蒸発してしまう。雨が少ないため土に水分を蓄えておくことができないのだ。

人間だって植物だって水はなくてはならないものだ。その大切な水を私たちは意識せずに使っている。いつでもどこでも水道の蛇口をひねりさえすれば水は永遠に出てくるものと勘違いをしているのだ。そしてその水は絶対にきれいであると確信している。自分たちは水を川を汚しておきながら、水道水はきれいなことが当たり前なのである。

ところで私は以前、夏休みの自由研究として「水質汚染」について調べてみたことがある。一つ目はコマツナの水耕栽培の実験である。粉石けんと合成洗剤、シャンプー、歯磨き粉、台所用洗剤の水溶液を使ってコマツナの根の生育状況と発芽状況を観察した。結果は予想通り、粉石けんの根はすくすくと伸びて双葉も成長したが、合成洗剤等の水溶液で育てたコマツナは根がほとんど伸びず、葉も少し出かけた状態で茶色く枯れてしまった。

二つ目の実験は、土は粉石けんや合成洗剤に影響を与えるかどうかを調べてみた。普通植物は水耕栽培されるのではなく、土に植えられるからである。テスト液は粉石けんと合成洗剤の水溶液を「土」

で一度ろ過した液と、ろ過しない液の二通りの水溶液でコマツナの水耕栽培をした。実験結果は粉石けんの場合、土でろ過した水溶液の方は芽も根も正常に生育したが、ろ過しなかった方は芽の出方が少し遅れ、芽の長さや根の長さが少し短かった。一方、合成洗剤の水溶液では土でろ過した方もろ過しなかった方も同じようにコマツナは根も伸びず生育せずに茶色く枯れてしまった。この結果から粉石けんは土に一度通すと成分の有害な部分が少し無害なものに

☆はじめに～今回の論文について～

- 様々な観点から水にまつわる「環境の変化」を調べ、問題点を探す。
-水不足、合成洗剤の影響etc...
- 「環境の変化」への対応策を探る。

近年、渇水が深刻化...

●ダムの様子(吉野川 早明浦ダム 早明浦ダム貯水池)

2008年夏には4度の取水制限

●身近なところでも雨不足を感じる日々
一水が足りなくなっている！

変化するのではないかと考えた。しかし、合成洗剤の方は土に通しても成分の無害化は見られなかった。よって、粉石けんはたとえ土に流れ出したとしても合成洗剤が流れ出した場合に比べ、環境への影響が少ないということが分かった。

これらの実験からコマツナを育てた粉石けんを使うことは、コマツナを枯らした合成洗剤を使うことより環境のために良いことだとはっきり分かる。しかも粉石けんは土を通ることで成分が少し無害になるのである。しかし現実には合成洗剤の使用率の方が粉石けんの使用率より遥かに高い。コマツナに悪影響をもたらすものが人体に悪影響を与えないはずがない。それなのに私たち人間は合成洗剤を使い、それを川から海へと流している。私たちは毎日知らず知らずのうちに水を汚しているのである。


私たちが生きていく上で全く水を汚さないで生活することは不可能だ。しかし汚染を少しでも減らすことは私にもできる。まず洗濯には粉石けんを使う。身体を洗うときにはボディソープをやめて石けんにする。母が昔の人は身体を洗うときに「米ぬか袋」を使っていたらしいと教えてくれた。母も何度か試しに使ってみたことがあるという。それから花や野菜の水やりには米のとぎ汁を使っている。とぎ汁を排水として流さない上、水の節約になる。花や野菜の栄養にもなるので一石二鳥、いや一石三鳥である。例を挙げれば、他にもたくさん出てくる。先人の知恵は本当にすばらしいものだと思う。「身近にある物を利用すること」最近私たちが忘れていないことではないだろうか。

実験で見る「環境の変化」①

● 実験結果

○ 粉石けん
・よく生長した。

● 合成洗剤
・根がほとんど伸びず、葉が少し出たが枯れた。
・根が洗剤の水溶液を避けるように上向きに伸びた。



実験で見る「環境の変化」②

● 実験結果

○ 粉石けん
・どちらも正常に生長
・土でろ過した水溶液の方がよく生長した。

● 合成洗剤
・どちらも根が伸びず、茶色く枯れた。
・土でろ過したことによる違いはない。



実験で見る「環境の変化」③

● 考察

★ 粉石けんは環境に優しい
・植物の生長を害さない
・土を通すと無害化する特性

★ 合成洗剤の危険性
・植物だけでなく人体にも悪影響をもたらす

しかし私たちがよく使用するのは合成洗剤
→ 水の汚染は思った以上に深刻！

☆ まとめ

● 人間や動植物にとって、必要不可欠な水
・私たちは、水を意識せずに使っているのでは？
・「楽だから」、「便利だから」といった理由で、水を汚したり、無駄遣いしていないだろうか？

「自分の行動が環境破壊に繋がらないように」と考えて行動するべきである。

私たちは「楽だから」「便利だから」と言った理由で安易に物を使っている。安易に物を捨てている。合成洗剤を使い、排水として流すことが環境破壊につながることを一度真剣に考えてみなければいけない時期にきていると思う。水はいつでもどこでもあるものではなく、地球上に存在する水のうち、飲料水として利用可能な水はほんの少ししかないのである。その限りある水を未来に向けて守っていかなくてはならないと私は思う。

参考文献・HP

増尾 清「身近な食品テスト」(誠文堂新光社 1987年)

高知県嶺北林業振興事務所 <http://www.pref.kochi.jp/~reihokurin/>

独立行政法人水資源機構 池田総合管理所 <http://www.water.go.jp/yoshino/ikedai/index.html>

東みよし町役場 <http://www.town.higashimiyoshi.lg.jp/page.phtml?scd=13>

自らの変化は水の変化

富山県立高岡高等学校 1年 土橋 千咲



水はずっと私たちのそばにありました。飲料水として、料理に使う水として、体を洗う水として……。今でももちろん使いますが、昔のように水をそのまま使う事はありません。また、赤潮が発生したり、水生生物が減少したりし始めています。なぜ、そのように変化したのでしょうか。

現在、取り上げられる多くの環境問題の一つに、水質汚染があります。浄化能力を超えた生活排水の量と汚れ、浄化しにくい物質の増加が理由で、水が汚れ、生物の減少や生物の体への影響が起きています。地球温暖化などの問題と同じように、またもや人間のせいで水質汚染が進んでいます。蛇口をひねればどれだけでも水が出てきて、昔の人のような水や環境を大切にしようという気持ちは薄れてしまったようです。残念ながら、私も水について深く考える事はありませんでした。水について考えるどころか、何かを考える心の余裕さえ、人々は失いつつあります。

つい最近、「水によい音楽を聞かせると、よい結晶になる」と聞きました。音楽だけでなく、よい言葉をかけたり見せたりしても同じようによい結晶になるそうです。例えば、モーツァルト交響曲四十番を聞かせると、美しい結晶になる一方、あるヘビーメタルの曲を聞かせるとばらばらに壊れてしまいます。また驚いた事に、「ありがとう」と書いた紙を見せた水はきれいに整った結晶に、「ばかやろう」という言葉を見せた水は粉々に崩れてしまうそうです。水そのものでなくても、野菜や米などの食べ物も、いい音楽を聞かせるとおいしくなるという事などもあるそうです。どうやらその曲や言葉の持つ波動が水に影響したらしいのです。

人間の体は約七十パーセントが水でできています。言葉などによって水の結晶に変化が起きるのだから、言葉などの私たちへの影響は大きいのではないのでしょうか。実際、私たちは「ありがとう」と言われれば頑張る事ができて、「ばかやろう」と言われれば傷つく、という水の結晶のような反応を示します。それが全てだとは言えませんが、一つの考え方として見る事はできます。

私はそれを知った時、私たちが水と同じなら、それを水質汚染という問題解決に活かさないかと思いました。もちろん、たった今からできる事はたくさんあります。油を直接流さないなど、生活排水を汚さないようにする事、シャワーを浴びすぎない、使わない時は蛇口を閉めるなど、水の無駄遣いを減らす事……。私も、こまめに水を止めたり、お風呂の残り湯を洗濯に使ったりしていました。しかし、気をつけようと思っても、なかなかそれは長続きしません。それは水質汚染という問題が身近では確認しづらいため危機感がわからないからです。その上、心に余裕がない私たちにとって一つの行動を意識し続ける事は難しい事のように思えます。それでも、私たちは常に水と一緒にあり、私たちの大半は水でできているからこそ、必ずやらなければならない事なのです。

では、どうすれば少しでも水の事、環境の事への意識を高められるのでしょうか。それは、優しくなる事です。優しくなる、つまり心に余裕を持つことで、環境の事を配慮できるようになります。言うのは簡単です。しかし、そこで役に立つのが、「水の結晶の考え方」です。その考え方によって、人々は少し変わる事ができるのではないかと思います。変わり、心に余裕や安らぎが生まれる事で、もう少し水の事、自分たちの環境の事を考えられるのではないのでしょうか。まずは「ありがとう」な

どといった美しく優しい言葉を使い、人をけなすような言葉は使わない事から始められます。みんなが少しずつでも良い言葉を使ってみる事で、人の心に余裕が生まれます。その心の余裕によって、周りに気を配る事ができるようになると思います。そして、周りに気を配れるようになると、水や環境にも気を配れるようになります。そういった意識をみんなが持つ事で、環境だけでなく社会全体にも良い影響が必ずあるでしょう。

今、水質汚染以外にも地球温暖化や大気汚染、ごみ問題やエネルギー・資源枯渇問題など多くの環境問題があります。その環境問題を引き起こした人間には、問題を解決する義務があります。そして今やらなければいけない事は、恐ろしいほど多くあるでしょう。しかし、たくさんやるべき事があっても、高校生の私たちにできる事は限られてきます。その中で、「ありがとう」などの優しい言葉を口にし、心を穏やかにして、水質汚染などの環境問題に関心を持つ事。それが、数々の環境問題の解決のために、私たちができる第一歩なのです。

私たちの生活に必要不可欠な水。その水を失っては、私たちは生きていけません。もう限界だと悲鳴を上げている水のために、私たちが住む地球のために、そして私自身のために、私はまず自分から変わっていきたいです。

地球という星に生まれて

鳥取県立米子東高等学校 2年 伊藤千恵子



宇宙から地球を見たとき、地球は何故青く見えるのだろうか。最初に命が誕生した、その母なる海は何に満たされているだろうか。その答えが水であることは誰でも知っている。水。それは私たちが生きていくうえで絶対に欠かせないものであり、いかなる生物もこの恵みなくしては生き永らえることはできない。

しかし、それほどに水というものが重要であるにもかかわらず、我々はその存在をあまりにも軽視しすぎているのではないだろうか。世間では家庭排水、工業排水による水質汚染が度々話題に上がるようになり、私たちの父母の時代は澄んでいた河川も、今ではその面影もない。中学の頃水質汚濁について調べ、まとめたことがあったが、そのとき参考にした本に掲載されていた写真には、目を覆いたくなるものが多かった。ゴミが散乱している河川や海、死に絶えて汚れた水に浮かぶ大量の魚、プランクトンの大量発生による赤潮。人類が発展を辿る過程で失われていった多くのものを目の当たりにして、私の目にはそのとき、それらの写真を通して、青く神秘的な地球ではなく、赤褐色の混じる茶色に薄汚れた地球が映っていた。

よく聞く言葉に「湯水のように使う」という言葉があるが、果たしてその使い方は正しいのだろうか。湯や水は、どんどん使ってよいものなのだろうか。そんなはずはない。湯や水は無限ではなく、命を育む上でとても大切に貴重なものなのである。水がなければ草木は枯れ、作物は育たず、水なくして私たちは一週間と生きることが出来ない。しかし、日照りが続き、ダムの水が無くなって初めて水の貴重さに気づいているようではいけないのだ。私たちは、早急に水に対する意識を変えなければならない。手遅れになってからではもう遅い。人間の手によって変えてしまった多くの自然環境を元に戻すのもまた、人間でなければならないと私は思う。

確かに、誰か一人が行動したところで、変わるものは僅かかもしれない。しかし、一人一人が行動に移していかなければ、何も変わらないのだ。「一人一人が」とは、環境保護において多く用いられる言葉だが、しかし真実それ以上に物事を根底から変えられることは存在しないだろう。誰もが他人事として考えず、自分の事として、身近なこととして考える。かく言う私も、今まで水についてそこまで深く考え、生活の中に生かしていこうとしたことはなかったが、この論文を書くにあたり、改めてまた水との関わり方を見つめ直した。

とは言うものの、水の大切さを実感できても、個人単位でその為出来る事は、実際には少ないのではないかと思う。この発展した日本という国に生まれ育ち、水道の蛇口を捻れば、飲める水が当然のように出てくる状況にあってはなおさら、実感することさえ、意識しなければなかなかないと思う。だからこそ私は、国や地方公共団体の単位で、もっと環境問題に具体的に取り組むべきなのではないかと思う。確かに環境つての話題は日々取り上げられ、少しずつでも前進しているのかもしれないが、こうして日常生活を送っていて、それを肌で感じることは少ない。年金問題なども重要ではあるが、水質汚濁などの環境問題も最重要課題として談義され、具体的な政策として取り組まれるべきことなのではないだろうか。国民の意識に訴えかけるのではなく、法などで具体的に規制する必

要が、現状況においてあるのではないかと私は思う。

当たり前であったものが当たり前でなくなり、人間を取り巻いてきた環境が、人間の手によって脅威と化し、人類を脅かす日はそう遠くないだろう。いや、それはもう既に起こり始め、進行していることなのだ。水だけを取り上げるにしても、環境の変化によって海や河川からの恵みは減り、沢山の生き物が絶滅の一途を辿り、新たに生まれるはずのない生き物たちが大量発生している。そうやって自然が発している警告を、人間が無視し続けたならば、それは自分の手で自らの首を絞めていくことに他ならないだろう。

「環境を守る」、「環境の為に」、「環境に優しい」。私はいつも、これらの言葉は、若干違うのではないかと思っている。私たちが守ろうとしているのは、人間の住める環境ではないだろうか。地球環境を良くするための最善の策を取ろうと思うなら、今すぐに人間が絶滅するべきなのではないだろうか。地球上に人類が誕生してから現在に至るまでの時間は、地球の歴史からしてみれば、本当に僅かなものと言われるが、その僅かな時間のうちに、私たちは多くのものを変えてしまった。私たちが環境を守ろうとするのは、人間に適した環境を守ろうとしているということに他ならないだろう。

そう、人間という生き物は、どこまでも自分勝手だ。しかし、だからといって環境を汚しつくして絶滅の一途を辿ってもいいかという、決してそうではない。自己中心的でありながら、私たちは自分たちのせいで変えてしまった多くの自然環境を、少しでも元に戻す努力をしなければならないだろう。私は将来、子孫たちに、地球を青や緑のまま遣したいと思う。自分の手で壊してしまった自然環境を、汚してしまった水を、後の人類にどうにかしろとって渡すことほど無責任なことはないだろう。だからこそ私は思うのだ。自分に出来る限りのことがしたいと。微かながら、私たちの生活の犠牲になってきたものを元に戻すための力になりたいと。命を育む澄んだ水を、後世に遣していきたいと。

水とわたしたち人間

京都府立洛北高等学校 1年 中野さゆり



増えすぎて悪いことを繰り返すようになった人間たちに怒った神は、世界に40日40夜にわたって続く大洪水を引き起こしました。善き人間であったノアとその家族は神の言ったとおりに大きな方舟を作り、すべての動物とともに乗り込み嵐を耐えました。水がひくとノアたちは地上に戻りました。神は彼らにもうそのような大洪水を起こすことはない契約しました。

これは旧約聖書創世記、ノア方舟の話である。このように神のもたらした大洪水によって世界中の生物と人類、文明が一旦ほろぼされるという伝承は、世界各地に伝わっている。起源については諸説あるが、大洪水、増水というのはそれほど強大な力をもち恐れられるものだったのであろう。

時代は変わって、今、わたしたちは水とうまくつきあえているのだろうか。

小さい頃は、梅雨が大嫌いだった。毎日毎日、しとしとざあざあの繰り返して、雨が止んでいるときでも家の中はじめじめ。外に出て遊ぶこともできなくて、それが何日も続くものだからもう我慢できない、このまま一生雨がやまなかったらどうしようと本気で心配した。ようやく雨が上がったときにはもう、夏がすぐそこまできている。むっとするようなアスファルトの匂いと晴れ上がった空に、いつもより鮮やかに青く見える山や草木。夏が始まる高揚した気分とともに毎年感じる空気だった。

ところが最近、何かが違うのだ。以前のように何日も続くうっとおしい雨がな。梅雨入り、梅雨明けの時期がわかりづらい。水不足に悩む地域があるかと思うといきなり熱帯雨林のスコールのような集中豪雨におそわれたり、どうもおかしいと思い始めたのは数年前だ。

梅雨に限らず、極端な気象現象は実際に増えている。環境省の調査では、月降水量における異常少雨の年間出現数が、20世紀初頭の30年間に比べ、平成19年までの30年間では約1.5倍になっている。また1980年代以降、異常多雨、異常少雨ともに増加する傾向が見られるとしている。また、日降水量103ミリ以上および200ミリ以上の年間日数についても、1901年から2007年の107年間において明らかに増加しているのがわかる。

やっぱり、という感想だ。私にもわかるほどだから、学者たちにはもっと前から、わかっていることなのだろう。気候変動に関する政府間パネルでは、世界規模での調査・研究が進んでいる。世界的な取り組みとして、ノーベル平和賞が授与されて知名度も上がった。だが、わたしたちのまわりで画期的な温暖化対策がはじまったかという、そういうわけでもない。ノアは神が大洪水を予告した時、皆に警告してまわった。だが警告を聞いた人々は、誰も本気にしなかった。そして皆、水に吞まれてしまったのだ。警告は受け取って行動する人がいなければ意味がない。IPCC、気候変動に関する政府間パネルは警告者である。温暖化によってもし方が一、伝承されているような世界的な大洪水が起こったとしても、方舟はない。よしんば何らかの方法で難を逃れたとしても、水が引くという保証はない。そのことだけを考えてみても、早く行動を起こさなければと思う。だが世界はいまだに一つにまとまることができないでいる。

悲しいことに日本を含む先進国の人々は、もはや大量の水を使わずには生きてゆけない。かたや水の少ない国では、人々は日に数リットルの水しか使えず、それさえも何時間も歩いて取りに行かなければ

ば使えない。地球上で排出されている二酸化炭素のほとんどは、先進工業国から出ている。だが、温暖化による海水面上昇で被害を受けるのは太平洋の小さな島国である。

仮に将来、地球が住めなくなれば、人類が宇宙に移住するということもあるだろう。だが現在のままの国家体制のもとであれば、その小さな方舟はそれを作った先進工業国の人の移送に使われるのではないだろうか。

環境問題の解決に最も重要なのは、世界平和であると思う。そして、お金のことを度外視してでも温暖化をくい止めなければならないという強い危機感も必要だ。今が最後のチャンス。手遅れになる前に、ノアの言葉に耳を傾けよう。そうしなければ、水はいつまでもわたしたちの敵でありつづけるだろう。

Ⅲ 応募高等学校一覧

北海道

北海道室蘭清水丘高等学校
北海道帯広農業高等学校

青森県

青森県立三沢高等学校

福島県

福島県立福島工業高等学校

埼玉県

埼玉県立いずみ高等学校

神奈川県

サレジオ学院高等学校

富山県

富山県立高岡高等学校

山梨県

北杜市立甲陵高等学校

静岡県

静岡県西遠女子学園高等学校

愛知県

愛知県立岡崎商業高等学校
愛知県立小牧高等学校

京都府

京都市立伏見工業高等学校
京都府立洛北高等学校
京都府立桃山高等学校

兵庫県

神戸学院大学附属高等学校
兵庫県立三木北高等学校

和歌山県

近畿大学附属和歌山高等学校

鳥取県

鳥取県立鳥取東高等学校
鳥取県立鳥取西高等学校
鳥取県立八頭高等学校
鳥取県立倉吉東高等学校
鳥取県立米子東高等学校

島根県

島根県立津和野高等学校
開星高等学校

岡山県

岡山学芸館高等学校

広島県

広島県立油木高等学校
広島県立広島皆実高等学校
広島県立呉昭和高等学校
広島県立広島国泰寺高等学校

山口県

山口県立徳山高等学校
山口県立大津高等学校
山口県立田布施農業高等学校

徳島県

徳島県立池田高等学校

愛媛県

聖カタリナ女子高等学校

高知県

高知県立中村高等学校

福岡県

福岡県立筑紫丘高等学校
福岡県立山門高等学校
福岡県立香住丘高等学校

佐賀県

佐賀県立武雄高等学校

IV 過去の賞歴

※賞歴にある賞名、高等学校名、学年などは、授賞時点のものです。

第1回 全国高校生環境論文TUESカップ(平成16年)

テーマ 「地球の未来を考える」

応募 28都道府県48校 554作品

1) 最優秀賞

「水田のメタンから地球温暖化を考える」

筑波大学附属坂戸高等学校 (埼玉県) 2年 山口 麦

2) 優秀賞

「みどりの地球」

群馬県立勢多農林高等学校 3年 細野 瑞穂

「水と人との共生に向けて」

立命館高等学校(京都府) 2年 安井 裕太郎

3) 佳作

「私にできること」

兵庫県立小野高等学校 1年 仁尾 有希

「21世紀は「環境との共存」の100年」

東京学芸大学附属高等学校大泉校舎 3年 勝又 優子

「未来への扉」

群馬県立尾瀬高等学校 2年 星野 由加利

「二酸化炭素が地球環境をかえる」

立命館高等学校(京都府) 2年 四方 飛鳥

「森林を守るために」

北海道岩見沢農業高等学校 3年 斉藤 佳之

4) 学校賞

●立命館高等学校 (京都府)

●聖カタリナ女子高等学校 (愛媛県)

●神戸学院大学附属高等学校 (兵庫県)

●島根県立津和野高等学校 (島根県)

第2回 全国高校生環境論文TUESカップ(平成17年)

テーマ 「環境問題 -今私たちにできること-

応募 25都道府県54校 850作品

1) 最優秀賞

「環境を守る ～地域に伝えたい私のメッセージ～」

愛媛大学農学部附属農業高等学校 3年 菅野 宏和

2) 優秀賞

「身近な公園の中に残された生き物たち ～今治城の環境調査から考えたこと～」

愛媛県立今治南高等学校 3年 小澤 祥史

「環境教育について」

東京都立つばさ総合高等学校 3年 阪本 睦美

3) 佳作

「環境問題は利用できる」

兵庫県立小野高等学校 2年 筒井 岳広

「絶滅危惧種カスミサンショウウオの保護活動」

多々良学園高等学校(山口県) 2年 安村 遼介

「かけがえのない自然」

立命館高等学校(京都府) 2年 松井 惇史

4) 学校賞

●神戸学院大学附属高等学校 (兵庫県)

●立命館高等学校 (京都府)

●山梨県立甲府西高等学校 (山梨県)

●兵庫県立小野高等学校 (兵庫県)

5) 奨励賞

12校

第3回 全国高校生環境論文TUESカップ(平成18年)

テーマ 「環境問題 - 未来へのメッセージ」

応募 25都道府県55校 1,088作品

1) 環境大賞

「春の女神」との再会 山形県立山形東高等学校 2年 富 樫 敬 太

2) 鳥取環境大学長賞

「ガマの環境保護能力」 高田高等学校(三重県) 1年 加 納 滉 大

3) 鳥取市長賞

「TUVALU」 鳥取県立倉吉西高等学校 1年 西 村 さおり
「今、できることを」 兵庫県立三木北高等学校 2年 水 野 花

4) 佳 作

「環境保護と自己犠牲」 鳥取県立鳥取西高等学校 2年 金 藤 三 花
「森を守る」 島根県立津和野高等学校 3年 廣 兼 純一郎
「環境問題～未来へのメッセージ～」 愛媛大学農学部附属農業高等学校 1年 谷 田 任

5) 学 校 賞

●島根県立津和野高等学校 (島根県) ●済美高等学校 (愛媛県)
●都城工業高等専門学校 (宮崎県)

6) 奨 励 賞 13校

第4回 全国高校生環境論文TUESカップ(平成19年)

テーマ 「環境問題 ～世界・日本・私たちの暮らし～」

応募 22都道府県45校 1,352作品

1) 環境大賞

「綾瀬川での取り組み」 東京都立農芸高等学校 3年 石 倉 卓 也

2) 鳥取県知事賞

「地球環境を改善したい!! 豆腐製造の新技术 おから溶解処理方法の発見」
長崎県立島原農業高等学校 2年 園 田 加菜美

3) 鳥取市長賞

「私の身近な水環境をより豊かなものに ～地元から考える～」
神戸学院大学附属高等学校 1年 赤 松 優 子

4) 新日本海新聞社賞

「犯人」 鳥取県立鳥取東高等学校 2年 西 尾 昌希子

5) 佳 作

「消えゆくホタル」 長野県富士見高等学校 2年 山 本 高 大
「消える星と光害」 鳥取県立鳥取東高等学校 2年 岡 室 那 弥
「経験から学ぶこと」 神戸山手女子高等学校 3年 原 田 映 里

6) 学 校 賞

●都城工業高等専門学校 (宮崎県) ●鳥取県立鳥取東高等学校 (鳥取県)
●徳島県立池田高等学校 (徳島県)

7) 奨 励 賞 10校

**第5回全国高校生環境論文
TUESカップ論文報告書
「水と私たち」**

2008年12月発行

発行 鳥取環境大学
鳥取市若葉台北1丁目1番1号
TEL 0857-38-6720 (入試広報課)

印刷 中央印刷株式会社
鳥取市南栄町34
TEL 0857-53-2221

TOTTORI UNIVERSITY OF ENVIRONMENTAL STUDIES



●鳥取環境大学全景



鳥取県と鳥取市が設立した「公設民営方式」の大学

TUES **鳥取環境大学**

環境情報学部 環境政策経営学科 / **NEW** 環境マネジメント学科
(2009年4月名称変更) (2009年4月開設)

建築・環境デザイン学科 / 情報システム学科
(2009年4月名称変更)

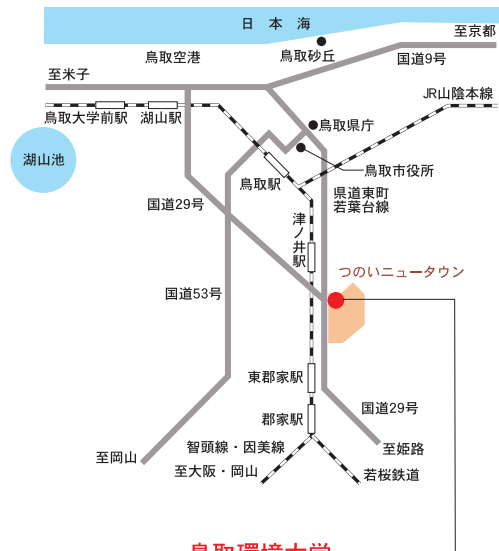
[PC] <http://www.kankyo-u.ac.jp/>
 [携帯] <http://www.kankyo-u.ac.jp/mb> >

TEL 0857-38-6720 (入試広報課)

Fax.0857-38-6729

E-mail nyushi@kankyo-u.ac.jp

〒689-1111 鳥取県鳥取市若葉台北1丁目1番1号



鳥取環境大学

- キャンパスへは
- 津ノ井駅から徒歩約20分
 - 鳥取駅からバスで約20分
 - 鳥取空港から車で約30分



鳥取環境大学はISO14001を認証取得しています。

再生紙を使用しています

